

包括連携協定締結

南紀白浜
空 港 脱炭素と強靱化

オリコンサルら

オリエンタルコンサルタンツは、南紀白浜エアポート（岡田信一郎社長）、JAG

敷地内に太陽光発電環境を整備することで災害時のレジリエンスを高める。

国際エナジー（坂根多加弘社長）と南紀白浜空港のゼロ・エミッションを目指す包括連携協定を締結した。2050年カーボンニュートラル実現に向け、空港敷地内での脱炭素とレジリエンス強化に3社が協力して取り組む。

さらに空港施設と22年6月開業予定の空港ビジネス拠点で再生可能エネルギー電力を融通し、平常時における電力消費の効率化と脱炭素化を図る。

具体的には、南海トラフ地震などの有事を想定し、空港

将来的には環境に役立つ取り組みを空港が立地する和歌山県白浜地域、紀南全域に広げることによって余剰電力を地域内

で融通し合うマイクログリッドの構築など、地域全体としてのレジリエンス強化につなげていくことを目指す。

オリエンタルコンサルタンツは、同空港を管理運営する南紀白浜エアポートと業務提

携し、空港土木施設アセットマネジメントと、空港を拠点とした地域活性化支援に取り組んでいるほか、和歌山県が実施したプロポーザルで空港ビジネス拠点の整備・運営事業者にも選定されている。